

日本兵はお爺さんの腕から私を奪い取って・・・

張秀紅さんの証言 (1926 年 5 月 7 日生まれ・寅年) 当時 11 歳

当時住んでいたのは南京の西「中和梗（土偏）」（梗（土偏）というのは堤、堤防の内側に住んでいた）です。日本兵が初めて来たのは 1937 年旧暦の 11 月でした。日にちは覚えていませんが日本兵が双閘の方からやってきて、10 数人がいきなり家に入ってきました。父の襟首をつかんで「お前は支那軍だ！」と言いました。父は額にすじ（帽子の跡形）があり、手にはタコができていました。家には私と二人の妹がいました。私は妹と急いで野良仕事の鍬を持ってきて「父は野良仕事で手にタコがあります。いつも麦藁帽子をかぶっているから筋があります。」と一生懸命ひざまずいて説明しました。日



本兵は何を言っているのかわからない言葉でしたが、通じたのか父は助かりました。

私の家族は両親と姉妹 3 人に生まれたばかりの男の子、祖父の 7 人でしたが男の子（長男）を重視し、両親は長男を連れてすぐに逃げました。祖父が残された私たち 3 人姉妹（3 つづつの年の差）の世話をしてくれました。

その後、家が日本兵に焼かれたので住むところなくなり、家の近くの水田のクリークの中に身を隠しました。

旧正月がまもなくやってきました。旧正月の 15 日以降だったと思います。18 歳の母方の叔母さんがいました。西善橋からやってきたひとりの日本兵がおばさんを強姦しようと裏の庭まで連れていきました。裏庭には地面に

大きな甕を埋めた野つぼに大小便をためていました。上には竹で編んだ蓋を被せてありました。おばさんはどうせ殺されるなら一生懸命抵抗しようと野つぼの側でもみ合っていたら、日本兵が野つぼに足を滑らせて落ちました。おばさんは殺されるか殺すかで、日本兵を棒で殴って野つぼの中で殺しました。夕方、西善橋に駐屯していた日本軍が一人の帰らない日本兵を探しに来ましたが見つからなかったので戻っていきました。村でみんなが「日本兵が見つからなかったからきっと明日は村へ殺しに来るぞ」と言っているのが怖くなって、逃げることにしました。西善橋の東「趙家園」に逃げました。家は沙州圩でしたがそこから西へ 7～8 km 離れています。（西善橋と双閘の真ん中あたり）ここは、沼地なので水が多く隠れやすいからです。日本兵は水を怖がるので水の多いところに逃げました。私たちの村の中で逃げなかった人は翌日みんな殺されました。

趙家園に逃げるとき、ふとんや米を持っていきました。冬なのでクリークの中は水が少なく、そこに隠れていました。夜になるとごはんを作り、布の袋に入れておき昼にお腹がすくとその袋の中から出して食べ、のどが渇くとクリークの水を手ですくって飲みました。クリークの中で 10 日間以上いました。その期間中に 2～3 回日本兵が若い娘を

強姦するのをこの目で見ました。クリークから出て見ると大きな広場に、鍋底の墨を顔に塗り、古い綿入れの服を着た数十人の若い娘を並べ、日本兵がきれいな顔をした娘数人を選んで顔を洗わせ別の場所に連れていきました。残った娘はその場で機関銃で撃ち殺されました。

もうひとつクリークから見た日本兵の暴行があります。3〜4人の1歳にも満たない赤ちゃんを日本兵が面白がってお尻から銃剣をさしこんで持ち上げました。空中で振り回し赤ちゃんが泣き叫ぶと別の見学していた10数人の日本兵たちが笑い、拍手していました。赤ちゃんが泣き止むと（死んだので）放り投げて捨てました。また、他の赤ちゃんを刺し貫き持ち上げて遊んでいました。こういうことを3〜4人の赤ちゃんにつづけてやりました。

しばらくすると村のみんなから沙州圩の方が安全になったと聞いて村の人たちと一緒に戻りました。ある日突然日本兵が家にやってきました。私はまだ子供ですからおじいさんが私を守るために私を抱きしめ日本兵に渡すまいと抵抗しました。日本兵はおじいさんの背中を銃剣で突付きました。「もう離して、離さないと二人とも殺される」私は子供だからおじいさんが殺されたら私も生きていけない、助かるわけがない、ふたりとも殺されるなら一人のほうがまだましだから・・・と思い、私は日本兵にとりよりの空き家になっている部屋に連れて行かれました。日本兵は私をベットに倒すと服を脱がせました。日本兵は無理やり股（性器）を強く開きました。苦痛でした。私は気絶し強姦されました。日本兵が去って行ったのもしりませんでした。とおじいさんは血がいつぱい出ている私の足を閉じて縄で股をしっかりとしばり、お腹をさすって揉んでくれました。意識が戻ってくるとおじいさんは、私を抱きしめてこんな被害を受けて、と泣きながら一生懸命言ってくれました。長い間足は全然動けない状態でした。70年も経っても天気の悪い日には後遺症が出て痛みます。座っていると立ち上がれません。まだあの時は11歳でしたから、あまりにも傷が大きかったのです。

そんな事があって、昼は家の中は危険なので、おじいさんが藁の山の中に身を隠してくれました。ある日、日本兵はいくつかの藁山を若い娘がどこに隠れているのか探すために銃剣で突き刺していきました。私の左指が半分切られましたが痛かったけれど、私と同じ様な目にあって痛くて泣いたため、日本兵がその藁山に火つけ焼き殺されたという話を聞いていたので、痛くても右手で押さえ藁山の中でじっと我慢していました。

そのうち日本兵は来ると藁山にはいつも火をつけるようになっていたので藁山も危険になりました。近くの大きな湖の中に島があり部屋が4つくらいの広さでした。島の周りには葦が群生しているので身を隠すことができます。朝、村の人が小舟で40数人を送っていき、昼はその葦の中に身を隠していました。

ある日、隠れているのを日本兵に見つかってしまい、日本兵は対岸から機関銃で撃てきました。私と近くにいた3人はすぐに水に飛び込み葦を掴んで鼻と口だけを水面に出し水の中にもぐりました。2月でとても寒かったです。30分くらいして水から出て周

囲を見ると 40 数人中 3 人だけが生き残っていました。隠れるところもすべてなくなってしまいました。

村の中では 10 数人が強姦されました。中には強姦されたあと性器に銃剣を突き刺され殺された人もいます。私は見ました。隠れるところもなくどうしようもなくなって髪を切って男に見えるようにしました。それでも日本兵が来て「お前クーニャンか？サイコー、サイコー（性交）」と声をかけてきます。「よく見てください、私は男ですよ」と言っていました。

いつも日本兵は村までやってきて飼っている豚や鶏を奪っていきます。私は男の子になりきっていたので日本兵が奪ったものを運ぶ仕事を何回もさせられました。天秤棒で大きな豚の肉を担がせ、こちらが疲れて歩かないと殺されます。村の男たちは子供から老人までいつも運ばされました。家から中華門まで重いものを担いで運ばされました。西善橋からも日本兵がやってきて食料を奪って運ばされたと村の人から聞かされました。



私たちは日本人でも中国人でも兄弟ですよ。前の日本軍のような悪いことをしないようにお願いしますよ。中日が友好に協力していきたいです。若い人には国家も団結し、勉強をして、仕事もして、平和な国家を築いて行ってほしいです。悪いことをしないようにお願いします。

（2007・8・15 南京にて）